［認知症対応型共同生活介護用］

1. 評価結果概要表

作成日　2009年4月21日

【評価実施概要】

事業所番号	2672800071
法人名	社会福祉法人和光会
事業所名	グループホーム梅林園
所在地	〒610-0113　京都府城陽市中芦原55 （電　話）0774-52-4500

評価機関名	社団法人京都ボランティア協会		
所在地	京都市下京区西木屋町通上ノ口上ル海湊町83-1　ひと・まち交流館　京都1階		
訪問調査日	平成21年3月7日	評価確定日	平成21年4月28日

【情報提供票より】（平成　21　年　2　月　10　日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	平成　15　年　8　月　20　日	
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計　7　人
職員数	10　人	常勤　3　人，非常勤　7　人，常勤換算　6.2　人

（2）建物概要

建物構造	鉄筋耐震造り
	3 階建ての　1 階部分

（3）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	40,000　円		その他の経費（月額）	円
敷　金	有（　円）		○無	
保証金の有無 （入居一時金含む）	○有（　50万円　） 無		有りの場合 償却の有無	償却有
食材料費	朝食	300　円	昼食	500　円
	夕食	700　円	おやつ	100　円
	または　1日あたり　円			

（4）利用者の概要（　2　月　10　日現在）

利用者人数		7 名	男性	0 名	女性　7 名
要介護1		2　名	要介護2	0　名	
要介護3		3　名	要介護4	2　名	
要介護5		0　名	要支援2	0　名	
年齢	平均	85.3 歳	最低	71　歳	最高　90 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	京都大橋総合病院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

約40年前に京都市内の病院院長が法人を立ち上げ、50床の特養から始め、現在220床を城陽市福祉ゾーンで運営している。園内には診療所、長寿食研究開発センター、家族が宿泊できるファミリールームなど、多彩な施設があり、梅や桜、北山杉など、自然が豊かである。グループホームは城陽市の第1号であり、定員7人のため非常に家庭的である。ホーム内はゆったりしており、居室は利用者の持ち込んだものなどで個性的になっている。地域住民とは種々のイベントで交流しており、地域の店に買い物にも出かけている。面会に度々くる家族が多く、行事への参加もあり、家族同士の交流が進んでいる。敷地内に利用者がつくっている畑や花壇があり、池には金魚や鯉が泳いでいる。食事は手作りの家庭的で季節感に富んだ献立であり、季節ごとの外出行事が多いなど、グループホームに求められている生活が実現している。利用者は会話があり、他の利用者の世話をしたり、自己主張ができる生活である。今後は職員が認知症への理解を深め、認知症ケアのレベルが上ることが期待される。

重点項目①

前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）

前回の評価で指摘された点として、事故防止についての取り組みと研修の実施について、改善が進んでいる。

今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）

今回の自己評価は職員に意見をもとめ、管理者と生活相談員がまとめている。職員は自己評価をすることによってグループホームで求められていることがわかったという感想がある。

重点項目②

運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）

要綱を作成し、家族、民生児童委員、老人会会長、城陽市福祉保健部高齢介護課職員、地域包括支援センター職員がメンバーとなり、2カ月に1回開催され、記録が残されている。グループホームからの報告にはパワーポイントで利用者の様子の写真を見せており、よくわかっていいと参加者から喜ばれている。誕生会には家族も参加したいとの意見があり、対応している。

重点項目③

家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）

家族会はないが、面会のときに顔を合わせたり、餅つきなどの行事に参加して知り合いになったりして、家族同士の交流は進んでいる。その他、運営推進会議にも熱心に参加されており、気軽に意見を述べている。

重点項目④

日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）

法人は40年近く以前から特養などを運営しており、地域の人には周知されている。七夕会、夏祭り、演芸会、地域高齢者との交流会、文化祭、クリスマス交流会等々、園では地域の人を招待しての行事を多数実施しており、グループホームの利用者もともに参加している。また城陽市の文化パルクでの和太鼓の演奏会、観蓮会などに利用者が出かけている。地域の幼稚園の祖父母参観に参加させていただいている。

2. 評価結果（詳細）

（ ▒ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念は「仁愛、誠実、研鑽」というものであり、パンフレットや重要事項説明書に明記されている。グループホーム独自の理念はなく、法人理念で進めてきている。ホーム内には掲示されていない。	○	昨年10月に着任した管理者はグループホーム独自の理念の必要性を感じており、「暮らしのパートナーになる」を考えている。これから職員とも十分話し合って決める予定であるので、期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	現在法人の理念を踏まえて、グループホームの運営方針が明確にされており、毎年法人全体として、項目ごとに目標をたて、達成状況を振り返り、次年度の計画へとつないでいる。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	法人は40年近く以前から特養などを運営しており、地域の人には周知されている。七夕会、夏祭り、演芸会、地域高齢者との交流会、文化祭、クリスマス交流会等々、園では地域の人を招待しての行事を多数実施しており、グループホームの利用者も共に参加し、地域の人と交流している。また城陽市の文化パルクでの和太鼓の演奏会、観蓮会などにも利用者は出かけている。地域の幼稚園の祖父母参観に参加させていただいている。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は職員に意見をもとめ、管理者と生活相談員がまとめている。職員は自己評価をすることによってグループホームで求められていることがわかったという感想があり、職員の意識付けになっている。前回の評価で指摘された点として、事故防止についての取り組みと研修の実施について、改善が進んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	要綱を作成し、家族、民生児童委員、老人会会長、城陽市福祉保健部高齢介護課職員、地域包括支援センター職員がメンバーとなり、2カ月に1回開催され、記録が残されている。グループホームからの報告にはパワーポイントで利用者の様子の写真を見せており、よくわかっていいと参加者から喜ばれている。誕生会には家族も参加したいとの意見があり、対応している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	城陽市の担当者とは連絡をとっているが、城陽市としての市民向けの認知症研修や介護相談などがない。	○	事業所の専門性を地域貢献するために、市民にたいして認知症ケアの研修会、認知症を抱える家族への相談会、認知症サポーター研修等を城陽市と共催で実施し、管理者等が講師をつとめることが望まれる。
４．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会は毎週来る人から毎月来る人まで、みなさん熱心に来訪されている。面会に来られた場合は利用者の情報を交換している。園全体の広報誌『こもごも』は毎月発行され、家族、コミセン、他の特養など介護保険事業所、市役所等に配布している。その中にグループホームのページがあり、写真入りで活動が紹介されている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会はないが、面会のときに顔を合わせたり、餅つきなどの行事に参加して知り合いになったりして、家族同士の交流は進んでいる。その他、運営推進会議にも熱心に参加されており、気軽に意見を述べている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	前管理者が出産のため10月に交代しているが、現管理者は同じ棟のリーダーをしていて毎日のようにグループホームに顔を出していたので、利用者へのダメージはなかった。時期を同じくして職員異動も続いたが、現体制になって職員も利用者も明るくなっている。管理者は職員が楽しく仕事ができるように心がけており、職員の旅行や親睦会なども実施している。職員の悩みにはじっくり話を聞いている。		
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	園内研修計画が立てられており、実施されている。外部研修は情報を提供し、受講を促している。アクティビティ、センター方式、接遇、家族支援、スーパービジョン、認知症ケア、リスクマネジメント等のテーマが受講され、報告書が残されている。資格取得にも補習などで支援しており、資格手当ても支給される。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は2、3のグループホームを見学した経験があるが、職員は他のグループホームを見学していない。	○	職員が他のグループホームを見学したり、そこの職員と交流したり、できれば1日を過ごしてみると、得るものは非常に大きい。自らの業務の良い点も課題も見えてくると思われるので、積極的に取り組むことが望まれる。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前には利用者と家族が見学したり、昼間の時間をホームで過ごしてもらうことを勧めている。利用が始まったら、なるべく早く馴染んでもらうために、家で使っていたものを持ってきてもらったり、じっくり話を聞いたりしている。お仏壇をもってきてもらうなど、生活習慣の継続のための取り組みに力を入れている。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	介護する人、される人という関係になると距離ができるので、職員は自分自身がグループホームで暮らしているという気持ちで業務をしている。「利用者にとって良い時間の流れになっているか」ということを常に考えている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の申し込み書やインテーク用紙に、ADL、精神状況、介護の状況、家族構成等を記録している。健康診断書や簡単な生活歴を書いた基本情報なども収集されている。利用者や家族の具体的な意向は聞き取れていない。	○	利用者や家族は自らの望む生活像について明確に発言することはなかなか難しいので、生活歴や趣味・嗜好などの詳しい情報を聴取することが望まれる。
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	利用が決まると生活相談員と職員が訪問面接し、聴取した情報をフェイスシートに記録している。利用が開始されるとアセスメントをとり、管理者が介護計画を作成し、ケア会議で検討し、確定している。	○	上記の生活歴、趣味・嗜好を反映し、また身体介護にとどまらず、生きがいのある生活のための介護計画を作成することが望まれる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎日の介護の状況はケース記録に書かれているが、介護計画の項目にそった記録ではなく、利用者の行動や様子が中心になっている。モニタリングは介護計画の項目にそって毎月行われているが、その根拠がケース記録からも、カンファレンス会議の記録からも、確認できない。	○	ケース記録は介護計画の項目にそって、介護を実施したかどうか、実施した結果利用者の表情や発言はどうか、実施できなかった場合はその理由、介護計画にたいする職員の考察などを書くことが望まれる。カンファレンス会議録は結論だけではなく、職員からの種々の意見を記録に残すことが、介護のレベルアップにつながると思われる。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
3. 多機能性を活かした柔軟な支援（事業所及び法人関連事業の多機能性の活用）					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	園内には特養、デイサービス、居宅介護支援事業所、訪問入浴、診療所、長寿食研究開発センター等、種々の施設があり、それがグループホームの利用者として利用できるメリットは大きい。特養の行事に一緒に参加したり、地域の人がボランティアに来たり、特養にくる理美容を利用したりしている。家族が宿泊できるルームがあり、利用者に面会に来て利用されており、リピーターも多い。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	園内の診療所は内科、神経内科、皮膚科、眼科に対応しており、利用者の受診に同行している。歯科医は毎週訪問してくれる。精神科や認知症の受診は洛南病院やおうばく病院に受診に同行している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	管理者は最期までお世話したいと考えているが、ターミナルケアに関する方針は明文化されていない。したがって、マニュアルはなく、職員研修も実施されていない。利用者や家族には最期までここで暮らしたいという意向を持っている人もいる。	○	なるべく早期に職員が話し合い、利用者が重度化した場合の対応について、グループホームとしての方針を決め、文書化することが望まれる。その上で、利用者や家族の意向を聴取すること、ターミナルケアを実施するならマニュアル作成と職員研修が望まれる。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	居室の戸もトイレの戸も、中から鍵をかけることができ、かける利用者もいる。トイレ誘導等の声かけは十分注意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課はおおよそ決まっているが、起床も就寝も利用者の自由である。一晩中寝ない人につきあうこともある。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養士が立てた1カ月分の献立と食材が届くので、それを利用して調理している。週に1回は独自の献立を立て、買い物に行き、当番の利用者と一緒に作っている。利用者は野菜を切ったり、味付けしたり、食器洗いをしたり、できることを支援されて行っている。鍋料理やホットプレートでのお好み焼きなどもしている。回転ずしへの外食もある。職員も共に食事しながら会話が弾んでいる。職員も同じメニューを食べることが期待される。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	家庭風呂より少し大きめの浴室であるが、明るく、床暖房で暖かい。おおむね隔日に入浴を支援しているが、毎日準備しているので、希望すれば毎日でも入ることができる。午後に行事があるときは午前に入ることもあるが、大体午後が入浴時間である。マンツーマンの同性介助である、		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食材買い物、調理や食器洗い、洗濯物干しや洗濯物たたみ、野菜づくりや花壇の作業などの役割を利用者は果たしている。週1回の食事づくりは当番制にしている。編み物や手芸、縫い物などを楽しんでいる。貼り絵は文化祭に出品している。10月には手作りの神輿が、1月には同じく手作りの獅子舞がホーム内を練り歩く。園内の梅をもいで梅干、シソジュースをつくったり、料理に利用している。干し柿づくりも楽しみである。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	寒い時期は週に2回くらいになるが、気候がよければ毎日のように散歩や買い物に出かけている。荒見神社への初詣、長池に蓮の花を見に行く、運動公園へ紅葉狩り、鴻の巣山運動公園へイルミネーションを見に行くなどの季節ごとの外出や文化パルクに和太鼓を聴きに行く、富野幼稚園の祖父母参観に参加させてもらうなど、地域交流の外出が多い。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	道路から園内へ、園内からグループホームの敷地内へ、敷地から玄関ドア等、すべて施錠されていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災については消火器、感知器、通報機、スプリンクラー等が設置され、防火管理者を設定、消防計画を提出し、食料等の備蓄を備えている。夜間想定も踏まえた避難訓練も行っている。AEDを備えており、救急救命の講習を職員は受講している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の毎日の食事摂取量は記録に残されている。献立は栄養士が立てており、カロリー値や栄養バランスが点検されている。水分摂取量の記録を残すことが期待される。		
２．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い園内の奥まったE棟の1階にあり、柵に木製の看板をかけている。ステンドグラスの玄関ドアを開けると居間兼食堂になり、そのまわりに居室がある。内部は広くゆったりとしており、観葉植物の鉢が大きなガラス戸から入る陽を受けて並んでいる。掘りコタツのある畳コーナーもある。ホームの外には桜の木があり、そこでお弁当を食べたり、お茶をしたりしている。まわりの芝生には梅ノ木が多く、花見と実の収穫も楽しみである。畑や花壇では葱、白菜、菊菜、人参、イチゴ、ほうれん草等々をつくっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は洋間でベッド、洗面台、椅子、タンス、押入れが備え付けになっている。利用者は整理タンス、飾りケース、小物入れ等々、使い慣れた家具を持ち込んでいる。仏壇に亡夫の位牌を置き、毎日拝んでいる人もいる。もらったり自分で買ったりしたみやげ物や置物を大きなケースに入れて飾っている人もいる。自分が彫った仏像の彫刻や犬の置物を飾ったり、衣装かけに自分がつくったパッチワークの布をかけたり、その人らしい部屋にしている。		